



2021年広島に開学した新しい県立大学

叡啓大学

EIKEI UNIVERSITY OF HIROSHIMA

ソーシャルシステムデザイン学部 / ソーシャルシステムデザイン学科



Hello, Future!

EIKEI Univ.

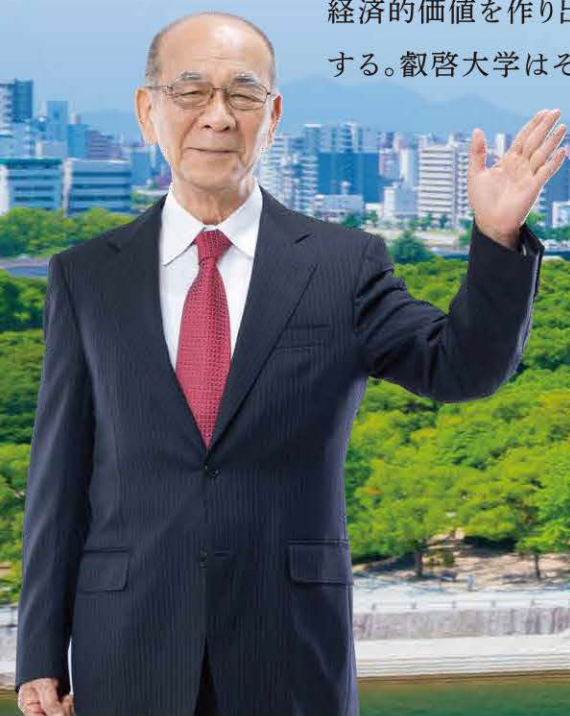
22世紀を^{ひら}啓く大学

新しい社会を描く

新型コロナウイルス感染症の広がりはいまだに出口が見えません。一方で、今ある仕事の半分はコンピュータやロボットに置き換えられるといわれています。今日と同じ明日が保証されているわけではないことを改めて認識させられています。

そんな中で世界を見ると、ロシアのウクライナへの侵攻や米中対立等、政治経済的な対立の構造が顕在化する中で、民主主義、グローバル化、市場経済、科学技術といった私たちが無条件に前提としていた社会規範が揺らいできているように思います。

ますます混沌とする社会の中で新しい未来を紡ぎだしていくのが若者たちの役割です。SDGsの目標を達成する新しい社会を心に描き、新たな社会・経済的価値を作り出すシステムを実現することによって、新しい社会を牽引する。叡啓大学はそのために必要なコンピテンシーを身につける場です。



学長 有信 睦弘 ARINOBU Mutsuhiro

1976年東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻博士課程修了(工学博士)。東京芝浦電気株式会社(現・株式会社東芝)研究開発センター所長、執行役常務などを経て、2009年に横浜国立大学理事、10年に東京大学監事、14年に理化学研究所理事。18年4月から東京大学執行役・副学長(2021年3月まで)。文部科学省中央教育審議会委員、同大学院部会部会長、同大学分科会将来構想部会委員を歴任、日本技術者教育認定機構(JABEE)顧問などを務める。

1 先見性

幅広い教養を基盤とする
複眼的・多角的視野で
本質的な課題を
発見する力

2 戦略性

デジタルリテラシーを基盤に
論理的思考力などを用いて
統合的な解決策を
戦略的に立案する力

叡啓大学で身につく

5つの コンピテンシー (資質・能力)

3 グローバル・ コラボレーション力

多様性を尊重し、異なる
文化・価値観などを有する
他者と協働する力

5 自己 研鑽力

生涯にわたって
学び続ける姿勢を通じて
自己を高める力

4 実行力

リーダーシップをもって
主体的・積極的に
チャレンジし、最後まで
やり抜く力

広島から世界へ。そして未来へ。

グローバル×ローカル＝グローカル!

グローカル(Glocal)とは、「地球・世界規模」を意味するグローバル(Global)と「地元・地域」を意味するローカル(Local)という2つの英単語を組み合わせた言葉です。

地球規模の視野で地域の風習や環境に配慮するという概念で、さまざまな領域で使われています。

グローバル、そしてローカルと、どちらの視点も持ち合わせる「グローカル」な人材がこれからの社会には求められています。

SDGsを念頭に、
世界を視野に入れ、
新たな価値を
創造する

経済・社会的に
価値のある解決策を
立案する

本質的な
課題を
見つける

*The best way to predict the future
is to invent it.*

Alan Curtis Kay

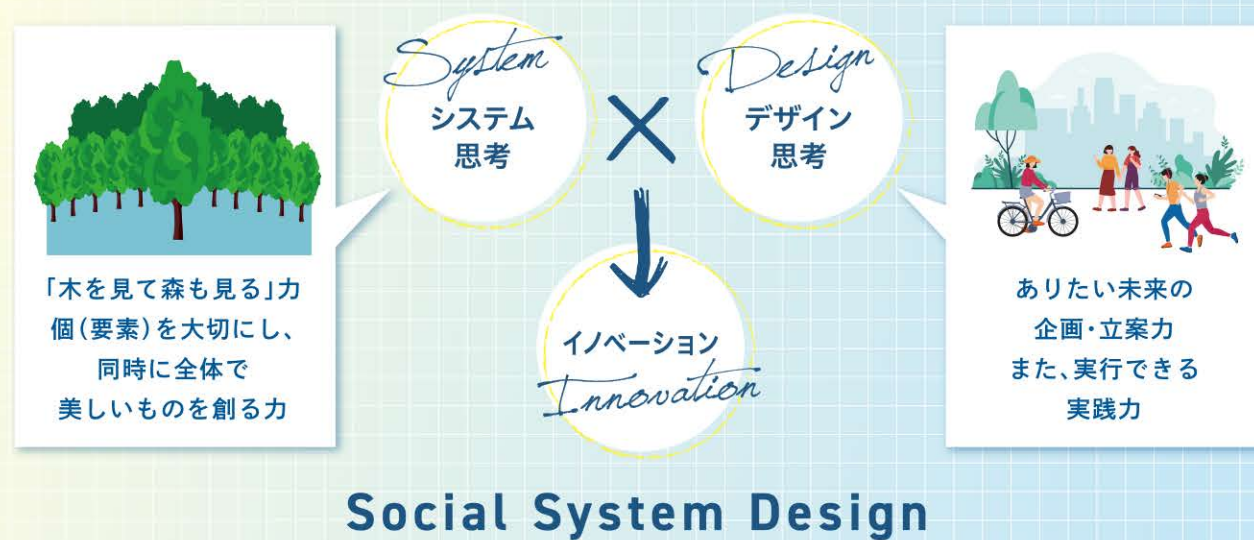
未来を予測する最善の方法はそれを自ら創り出すことだ

アラン・カーティス・ケイ
(米国のコンピュータ科学者・実業家)

社会の課題を発見し、新たな価値をデザインする。

ソーシャルシステムデザイン学部 ソーシャルシステムデザイン学科

社会で問いを設定し、解答を自ら探求するための方法論



学部の理念

「自らが将来のありうべき社会像を創ること」、そのために、「自らが課題を発見し、解決策を立案し、他者と協働しながら、リーダーシップを発揮し、実行することを通じて、新たな社会価値を生み出すこと」を理念としています。

※「あってもよさそう」「あってよい」という意味で、「あるべき」ではありません。

学びの概要

英語コミュニケーション能力とデジタルスキル、論理的思考力、デザイン思考・システム思考の方法論を身につけます。リベラルアーツ科目[※]の履修と、実社会の課題解決に取り組む課題解決演習、ボランティアやインターンシップなど海外を含む体験・実践プログラムを通じた実践的な教育を経験します。それらを通じて、自ら解決すべき課題を設定し、解決策の提案を行う卒業プロジェクトにおいて知識・能力の統合を図ります。

※中心となる主な学問領域は、文学関係(芸術・文学、哲学・倫理学、心理学、文化人類学など)、経済学関係(経営学など)、理学関係のうち環境学。

「人と社会を前向きに変えるリーダー(チェンジ・リーダー)」を育てる22世紀型大学です。

いまある職業と学問が半分消えていく時代に、学びが「デキる」ではなく、学びが「創れる」人、仕事が「デキる」ではなく、仕事が「創れる」人が求められています。本学はその声に、ソーシャルシステムデザインの学修と実践による人材育成で応えます。

ソーシャルシステムデザインは、複雑で「正解」のない社会課題に対して、問いを設定し、解答を自ら探求するための

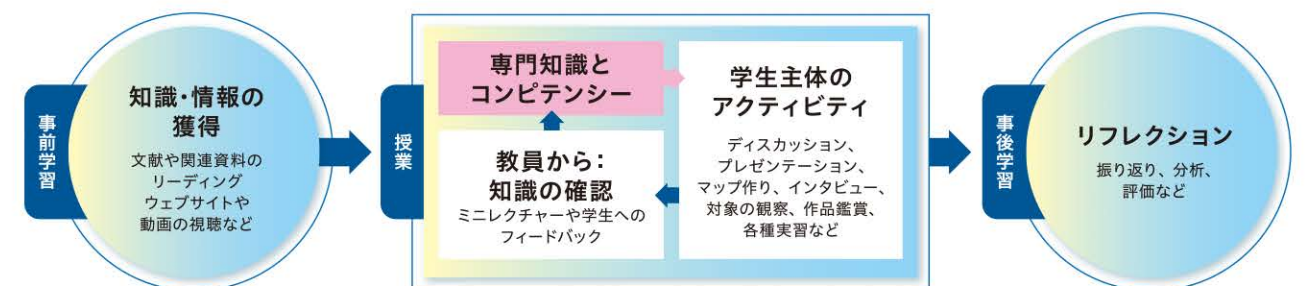
方法論です。地球善・世界善の幸せ(ウェルビーイング)のために、「鳥の目・虫の目」を持ち、知の統合による斬新な変革のための企画・立案・実行を、地域からグローバルまでを場に、生涯やり抜く力を涵養します。

「いまある社会を知る」よりも「これから社会を前向きに変える」ソーシャル・アントレプレナーシップ(社会起業家精神)を身につけたい。そんな熱い想いを持つ人に応える学部です。ぜひいらしてください。

学部長 保井 俊之 教授 YASUI Toshiyuki (ソーシャルシステムデザイン、公共政策)

1985年東京大学卒、財務省および金融庁など、パリ、ニューデリー並びにワシントンDCの国際機関や在外公館などに勤務したのち、地域経済活性化支援機構常務取締役、国際開発金融機関IDBの日本ほか5か国代表理事などを歴任。慶應義塾大学大学院で2008年から教壇に立つ。2011年国際基督教大学から博士号。米国PMI認定Project Management Professional。日本創造学会評議員、地域活性学会理事。 博士(学術) 国際基督教大学

すべての授業でアクティブ・ラーニング



1クラス25人の
少人数教育

主体的に
学べる
100分授業

2コマ連続授業
で集中して取り組める

より学生一人ひとりに応じた指導を行うため、原則として1クラス25人程度で授業を実施します。
※英語集中プログラムは1クラス16人程度。

授業時間のうち教員による一方的な講義は最大で20%程度を目安とします。学生同士の対話やグループディスカッション、質疑応答の時間を多く確保します。

1コマ100分の授業を2コマ連続で行うことで、同時期に並行して履修する科目が少なくなり、学生は授業に集中して取り組むことができます。

「ポート(port and hub:港)」による学生支援



学生40人(1学年10人×4学年)程度を専門分野の異なる教員2人が担任する「ポート」を設け、学生を支援しています。教員2人の研究室と学生が滞る部屋を隣接配置することで、学生が日常的に教員とコミュニケーションをとることができます。学修計画の立て方や履修科目の選択、学修方法についての指導・助言を受けやすい環境です。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針)



知識・スキルの「修得」と「実践」で 構成するカリキュラム体系

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)で定められたコンピテンシー(資質・能力)が身につくよう、「リベラルアーツ科目」や「基本ツール科目」、「実践英語」による知識・スキルの「修得」と、「課題解決演習」や「体験・実践プログラム」による「実践」を往復したうえで、「卒業プロジェクト」に取り組みます。自分の課題意識や学修状況に応じた履修を重ねることで、コンピテンシーの獲得と学位の取得を目指します。



世界で通じる「国際教養力」を養う

SDGsを意識したリベラルアーツ(一般教養科目)

SDGs(Sustainable Development Goals)は国連サミットで採択された、持続可能な開発のための国際目標です。実社会における課題に対して、持続可能な世界の実現に貢献することを念頭に、SDGsの17のゴールの方向を見据えながら、統合的な解決策の立案に寄与する人材の育成を目指します。社会課題を見る際は、SDGsの17のゴールを国連が分類した5つのP(Peace 平和、Partnership 共創、People 人間、Prosperity 繁栄、Planet 地球)を軸として設定し、様々な学問分野を横断的に学修します。



学びの軸となる5つのP

発展科目	People 人間 アイデンティティデザイン 人文学関係 多文化共生社会で人々の多様性を尊重する仕組みなど、社会課題に関する知識を修得	Prosperity 繁栄 ビジネスデザイン 経済学関係 グローバル化する経済・社会の仕組みや産業、技術発展などに関する知識を修得	Planet 地球 エコシステムデザイン 理学関係(環境学) 自然と共存しながら発展するための環境保全や生物多様性などに関する知識を修得
	Peace 平和 × Partnership 共創 平和な社会の構築や多様な主体との協働など、課題解決を行う上での思考・判断の基盤となる知識を修得		

Peace(平和)とPartnership(共創)は、SDGs 17のすべてのゴールに共通する方法論と位置づけ、学生全員が「基盤科目」として履修します。2年次からPeople(人間)、Prosperity(繁栄)、Planet(地球)をより具体的な課題領域「発展科目」として学びます。「発展科目」では、3つのPのうち1つをメインに学びながら、興味関心に応じて他の領域の教科を履修することもできます。

具体的な科目、カリキュラムはP15.16でCheck!

A STUDENT'S VOICE

畑 名津美 HATA Natsumi 2年
(大阪府立泉北高等学校 出身)

SDGsは全ての人が意識しなければいけないことです。大学で学びを深めることで、それらの課題の本質に気づくことができます。ICTに関しては、情報収集、発信についての知識を得ることで、SDGsなどの課題に対する解決策の新たな可能性が広がります。なかでも「12.つくる責任つかう責任」は、カフェの開業を目指す私の夢にも関係しているので、特に意識的に取り組んでいきたいと思っています。

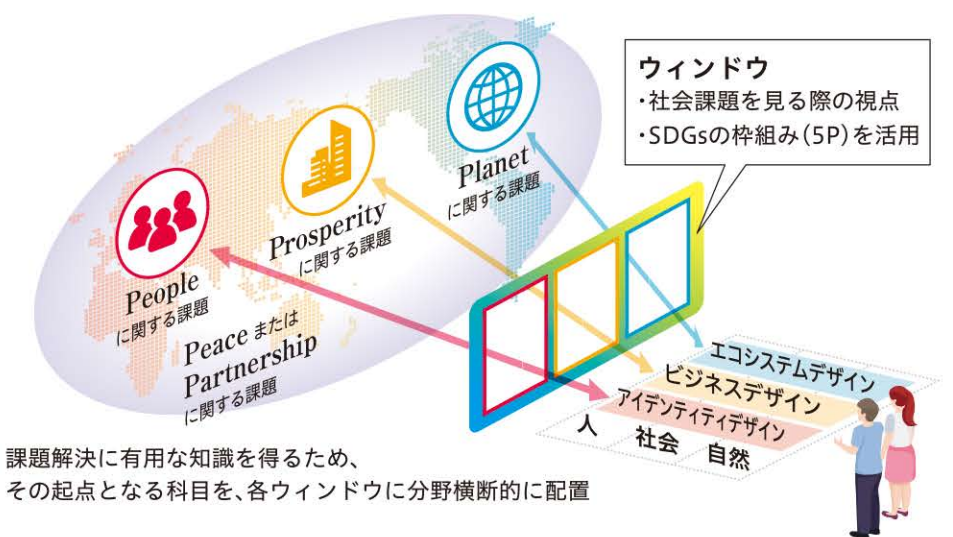


ウィンドウの設定による学修

SDGsの17のゴールは、実社会における課題に対して、国際社会全体の持続可能な開発目標として設定されています。このことを念頭に置きながら、複眼的かつ多角的で、グローバルな視点から将来を見通すことができる力を養います。各自の興味関心に応じて、課題を見る際の視点となる「ウィンドウ」を選択します。各ウィンドウのテーマに有用な知識が修得できるよう、カリキュラムが構成されています。

「ウィンドウ」のイメージ

ソーシャルシステムデザイン → 自ら創る「ありうべき社会像」



デジタルリテラシーや思考力の向上

IoTやAIなどが注目されています。今後の社会で必要とされるICTおよびデータサイエンス、ロジカルシンキング、デザイン思考、システム思考などのスキルの修得を目指します。



ICT・データサイエンス

ICTやプログラミングの基礎や活用方法(デジタルリテラシー)などを理解し、課題解決や事業立案などのツールとして活用します。あわせて、データを収集・分析して判断材料とする手法を修得し、実社会の課題に対し統合的な解決策を立案する戦略性の育成を図ります。また、ICTを活用する際に重要となる情報倫理の学習機会も設けています。

[例] Webサイトやアプリの作成技法、分析結果を効果的に活用するための技法、IoTやAI、データサイエンスを活用して実社会の課題を解決する手法など



思考系

課題解決に必要な、基本的な思考のスキルである論理的思考力を養います。実社会における課題解決プロセスで必要となるプロジェクトを進める手法や議論を促進し合意形成を図る方法などのスキルを修得し、実社会の課題に対し統合的な解決策を立案する戦略性を育成します。

[例] ロジカルシンキング、デザイン思考・システム思考、プロジェクトマネジメント、ファシリテーションなど



社会を動かす「実践力」を養う

実社会のリアルな課題に挑む課題解決演習(PBL)

課題解決演習(PBL)をカリキュラムに導入。1年次は「課題解決入門」を全員必修とし、学生は足りない知識やスキルを自覚します。2・3年次では、企業などから提供された課題の原因を探究し、解決策の提案までを行う演習に複数回取り組み、課題発見・解決力や他者と協働する力、やり抜く力などを養います。

課題解決演習(PBL)の流れ



課題解決演習(PBL)のテーマ例

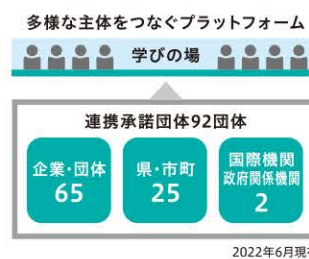
企業などのタイプ	課題タイトル(例)
民間企業(食品)	海外展開に向けた市場環境調査と消費者ニーズ把握
民間企業(IT)	新たなITサービスのアイデア創出
民間企業(交通)	データを活用したまちづくりサービス開発
民間企業(保険)	高齢ドライバーの事故を減らす取り組みの提言
自治体(市町)	少子高齢化の進行に伴う伝統文化の継承

社会全体が実践的なキャンパス

企業、自治体などの課題から学ぶ

実社会で生じている課題を教育に積極的に取り入れていくことができるよう、企業やNPO、国際機関、地方公共団体など学外の様々な主体と連携する「プラットフォーム」を構築しています。

企業や自治体の課題が演習テーマとして設定され、解決へのプロセスを実践的に学びます。自ら考え行動に移し、答えを導き出す基礎を養えるのも、叡啓大学ならではの学び。プラットフォームを構成する連携承諾団体は、さらに増えていく予定です。



2022年6月現在

卒業プロジェクト

最終年次の1年間で、自ら解決すべき課題を設定し、課題の原因究明から解決策の提案までを行います。個別の卒業プロジェクトテーマに関する課題研究をゼミ形式で実施。中間・最終の2度行われる報告会には、外部評価者として企業・行政などのステークホルダーを招き、それぞれの課題研究に対して、新規性、実現可能性などの観点からフィードバックをもらいます。それを踏まえて報告書をまとめ、公開プレゼンテーションの場で成果を発表します。

卒業プロジェクト(全体概要)



A STUDENT'S VOICE

鍵山 実玖 KAGIYAMA Miku 2年
(済美平成中等教育学校 出身)

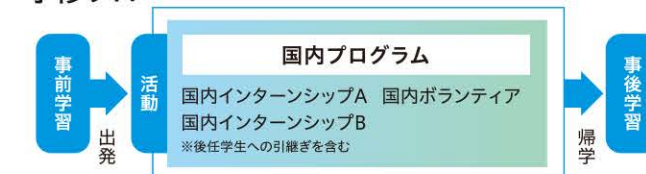
課題解決演習(PBL)を学ぶことで社会課題を知り、グループワークで意見を共有することにより、新たな視点に気づき視野を広げることができます。2週間ほど参加した広島電鉄株式会社のインターンシップでは、広島を盛り上げるために幅広く事業展開をしていることを目の当たりにし、責任を持った情報発信の在り方を学びました。ここで得た経験や繋がりを大切にしていきたいと思います。



企業などで課題に直面し、理解を深める(体験・実践プログラム)

プラットフォーム参画企業や国際機関などと連携し、インターンシップやボランティア活動などに取り組むプログラムです。学生は在学中に学外で活動することを必須とし、海外プログラムと合わせて4単位以上(2科目以上)を履修します。担当教員の指導のもと、事前学習、事後学習を組み込んだカリキュラムで、プログラム活動の充実と学びの深化を図ります。

学修フロー



国内プログラム(2年次または3年次)

科目	内容	期間
国内インターンシップA	県内企業、市町や県の行政機関、国際機関などにおける日常業務の一端を担うことにより、積極的に社会への関心を高め、仕事に対する理解を深めます。	2週間から数か月程度 ※国内インターンシップBは4週間以上
国内インターンシップB	国内インターンシップBは、学生同士による引継ぎを想定したプログラムです。前任の学生から業務手法や成果を引き継ぎ、発展させ、また後任となる学生に業務の内容を引き継ぐことによって、業務への責任感と理解をより深め、新たな学びや気づきを得ることが期待されます。	
国内ボランティア	県内で非営利組織の活動支援を行っている団体の協力を得て、地域おこしや災害支援、教育、外国人観光客対応などの活動に関わることで、自発的な社会貢献の経験を積みます。	

※インターンシップについては、PBLと同様に、プラットフォーム参画企業が主な受入機関となります。

社会の「今」を学バイブニングラウンジ

社会の第一線で活躍している方々と学生が自由に意見交換できる場として、イブニングラウンジを設定し、学生のキャリア形成を支援しています。



客員教授



山口 周 YAMAGUCHI Shu
現在、世界では「正解の陳腐化」という問題が起きています。これまで優秀な人材の条件とされた「正解を出せる」という能力の価値が下がっているのです。では、これからどのような人材に価値が認められるのか? おそらく、それは「良い問題」を生み出せる人になっていくでしょう。この叡啓大学で、学生の皆様にはぜひ「良い問題」を生み出す力を身につけてもらいたいと思っています。

1970年東京都生まれ。独立研究者、著作家、パブリックスピーカー。電通、BCGなどで戦略策定、文化政策、組織開発等に從事。株式会社中川政七商店社外取締役、株式会社モバイルファクトリー社外取締役。



藤野 英人 FUJINO Hideto
時代がダイナミックに変化をしています。これからの社会は、既存の価値観にとらわれず、楽しんで新しい挑戦をする人たちが創ります。しがらみのある組織では残念ながら新しいことはできません。わたしたちと一緒に未来の価値をワクワクしながらつくっていきましょう。それが個人のしあわせにもつながるのです。

レオス・キャピタルワークス株式会社 代表取締役会長兼社長・最高投資責任者。東京理科大学上席特任教授、早稲田大学政治経済学部非常勤講師、一般社団法人投資信託協会理事。



前野 隆司 MAENO Takashi
ウェルビーイング(幸せ、健康、福祉)の研究を行っている前野隆司です。幸せな人は、生産性が高く、創造性が高く、欠勤率が低く、ミスが少なく、健康・長寿であることが知られています。また、やりがいのあることを見つけ、多様で深い人間関係を構築している人は幸せです。幸せな学生生活と幸せな人生を歩んでください!

1984年東京工業大学卒業。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授。慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長兼任。博士(工学)。



深澤 直人 FUKASAWA Naoto
今後の教育の世界は一箇所に集まるとか同じ時間で学ぶのかといったような括りはなくなり、さらに自分の興味の対象を自由に学べる環境が整うに違いない。大切なのは、その教育によってどのように創発が生み出されるかだと思う。創造と創造が組み合わさって、予測もしない創造物が生まれるという時代に私たちは生きている。Let's make emergence(創発を起こそう)

プロダクトデザイナー。1956年山梨県生まれ。電子精密機器から家具、インテリア、建築に至るまで手がけるデザインの領域は幅広く多岐に渡る。多摩美術大学教授。日本民藝館館長。



英語シャワーで「グローバル」な人材になる

英語シャワーに触れる日常

コミュニケーション力を駆使して異なる文化・価値観などを有する人と協働し、グローバルに活躍できる力を養うため、実践的な英語を学修します。英語で授業を受けられるレベルの英語力の修得を目指すとともに、海外から積極的に留学生を受け入れ、キャンパスのグローバル化を推進しています。

6か月の英語集中プログラム

英語で授業を受けられるレベルに達するよう、1年次の最初の半年間で「Intensive English Program(英語集中プログラム)」を受講します。少人数・習熟度別(初級・中級・上級)にクラスを編成し、英語のみを使用することで、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング、プレゼンテーション力を鍛えます。

4人に1人が留学生

1学年100人のうちの20人程度の留学生に加え、交換留学などにより滞在する海外大学の学生を含めると4人に1人は外国人学生となるよう、キャンパスのグローバル化を推進しています。様々な文化的背景や価値観を持つ留学生と日頃から英語でコミュニケーションを取ることで、多様性を尊重する国際感覚を身につけます。

62単位以上は英語で授業履修

卒業に必要な124単位のうち、62単位以上は英語での授業履修が義務となります。一部の科目(留学生を対象とした日本語集中プログラムなど)を除き、同一科目が英語と日本語両方で開講されるため、全ての授業を英語で履修し卒業することができます。

スタンフォード大学SPICEと連携授業

スタンフォード大学SPICEと、県立広島大学大学院経営管理研究科(HBMS)との3者共同で2022年3月から連携授業(起業家教育プログラム)を始めました。ビジネスの現場で様々な課題に取り組んでいるHBMSの学生(社会人)と一緒に、互いに刺激しあいが課題解決に取り組んでいます。

【スタンフォード大学SPICEとは】
正式名称は「Stanford Program on International and Cross-Cultural Education (SPICE)」(日本語では「スタンフォード大学国際相互文化教育プログラム」)で、スタンフォード大学国際研究所FSIの部局。1976年の開設以来、初等教育から高等教育までのカリキュラム開発、教員の専門性開発、遠隔学習コースの開発を行っており、Stanford e-japan活動をはじめとする日本に向けたプログラムを提供している。

A STUDENT'S VOICE

吉本 考希 YOSHIMOTO Koki 2年
(広島県立祇園北高等学校 出身)

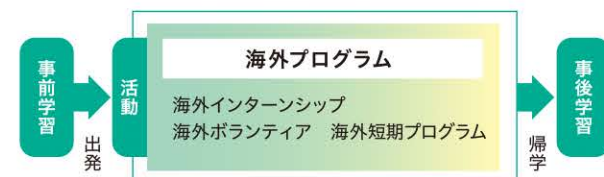
英語集中プログラムでは半年間、まさに「どっぷり」と英語に浸った感覚になりました。授業中の会話はもちろん英語なので、常に会話スキルが鍛えられます。同時にレポート課題に必要なライティング力、そしてプレゼンテーションもスムーズに行える力がつき自信となりました。社会に出て英語を活用できるほどレベルの高いプログラムです。今後はイギリスへの留学を考えています。イギリスの文化を吸収して、日本人という枠組みから抜け出したいですね。



異文化への関心を高め、多様性を学ぶ(体験・実践プログラム)

プラットフォーム参画企業や国際機関などと連携し、インターンシップやボランティア活動・留学などに取り組むプログラムです。学生は在学中に一度は海外で活動することを必須とし、国内プログラムと合わせて4単位以上(2科目以上)を履修します。担当教員の指導のもと、事前学習、事後学習を組み込んだカリキュラムで、プログラム活動の充実と学びの深化を図ります。

学修フロー



海外プログラム(2年次または3年次)

科目	内容	期間
海外インターンシップ	海外でのインターンシップを紹介している民間団体の協力を得て、企業などでビジネスの実務を経験することにより、異文化への関心を高め、交渉能力、協働する能力を高めます。	2週間から数か月程度
海外ボランティア	海外でのボランティアを紹介している団体の協力を得て、主に開発途上国で活動中のNGOなどにおいて経験します。社会背景の異なる環境下での体験を通して、現地の支援活動に貢献しながら、積極的に異文化への関心を高め、多様性への理解を深めます。	
海外短期プログラム	学外協力機関が提携する大学や、本学独自の提携大学の中から選択し、海外大学でのサマースクールなどの短期プログラムに参加します。	

※学外協力機関との連携により実施します。
※5万円/月の奨学金が付与されます。

新たな環境下で自分を磨く(留学)

様々な課題を自ら乗り越える経験を積むこと、困難に直面しても最後までやり抜くことを通じて物事を実行する力をつけること、多様な文化や価値観を有する他者と協働する力をつけることを目的としています。

留学は本学と交換留学協定を結んだ大学への留学「交換留学」と、学外協力機関を通じて留学先を選ぶ「一般留学」の2通りの留学方法があります。

「交換留学」の学生には5万円/月の奨学金が付与されます。

	交換留学	一般留学
窓口	本学	学外協力機関
期間	半年または1年	3か月~1年程度
留学先の授業料	不要	必要
その他必要経費	ビザ申請料、渡航費、保険料、生活費(住居費・食費・通信費) など	
単位認定	本学と単位互換可能な科目を履修し、単位認定された場合に単位付与	
出発時期	2年次以降	2年次以降
行き先	提携校6か国・地域8大学	10か国49大学

※本学における学事暦上3クォーター以上留学する場合、卒業に4年以上を要する可能性があります。
※上記内容は予告なく変更となる場合があります。

交換留学協定締結校



現在、世界6か国・地域8大学と交換留学協定を締結しています。
交換留学先は随時拡大していきます。

※カリフォルニア大学サンディエゴ校など海外短期プログラムへの参加も可能です。

2022年6月現在

フィールドは無限大 私が描くキャリアデザイン

叡啓大生の夢や実践活動から想定される進路イメージ

将来の夢

叡啓大学の方針に賛同し、応援の声をかけてもらうこともあります。自分の学びたいこと、やりたいことを突き詰め、その結果として叡啓大学を世界に誇れる大学にすることが夢です。

実践活動

福山市で行われたジーンズを一から作り上げるスクールに参加しました。この経験は、ジーンズを作る工程に加え、製造中の環境負荷やジーンズを長く履けることによる環境メリットを考えるきっかけになりました。今後環境対策を最優先にして、それらを全面に押し出したボーダーレスなジーンズを作りたいと思います。

想定される進路

- インフラ産業や環境に配慮した事業展開を志向する企業の企画部門

など

将来の夢

外交またはメディアに関わる仕事に就きたいと思っています。偏りのない情報発信をすることで、政治的圧力や誤解のせいでアイデンティティが失われることがないよう、平和な世界に貢献したいからです。大学での学びやコンテストへの参加などでさらに関心が深まりました。

実践活動

2022年2月に外務省が主催したオンラインの「国際問題プレゼンテーション・コンテスト」で奨励賞を受賞しました。今後は台湾への留学を考えています。現在、日本で得られる情報はアメリカナイズドされているように感じます。中華圏の情報や文化について自分の目で見て触れて正しく知りたいと思っています。

想定される進路

- 公共団体
- 社会貢献活動を行う団体の企画
- 新聞社やテレビ局などのジャーナリスト
- 外交官 ● 国際機関
- 国際 NGO

など

将来の夢

卒業までに、「食」の研究ができる自分の店をオープンさせたいです。将来的には、料理人をしながら、この大学で学んだ英語やコミュニケーション力を生かしてフェアトレードや、食に関するビジネスを展開することが夢です。

実践活動

飲食店のアルバイトをきっかけに食に興味を持ちました。まだ大学内に食堂が無いので、現在、学食の開設を大学に提案したりしています。また、立命館大学が主催する「LEMON ADVENTURE」に参加して、「食」に関する多くの人と関わり、アイデアを得ることができました。今後の研究や活動にいかしていきたいです。

想定される進路

- グローバルに展開するモノづくり企業
- サービス産業の企画・事業部門

など

木村 侑平 KIMURA Yuhei 2年
(山口県立高森高等学校 出身)

福高 七海 FUKUTAKA Nanami 2年
(岡山県立倉敷青陵高等学校 出身)

柳澤 翼 YANAGISAWA Tsubasa 2年
(福岡県立福岡工業高等学校 出身)

先輩の声 「1年前の自分と今の自分」

my first year. 01

小山 世梨奈 KOYAMA Serina 2年

出身地/大阪府(アサンプション国際高等学校 出身)

多くの活動を企画し取り組んだ1年
大学の文化、歴史を作り上げていく

1年間、クラブの立ち上げやRA※になり交流会を開催するなど、さまざまな活動を企画し、取り組んできました。その際に物事を客観視することでリスクマネジメント力が養われました。また、日本語と英語の2か国語で講義を受講する難しさを痛感したのと同時に、グループディスカッションやプレゼンテーションなどでは対外的にアウトプットできる充実感も得ることができました。開学して1年ですが、自分たちで大学の文化、歴史を作り上げていくことができる魅力的な大学です。

※RA…レジデント・アシスタント。学生寮の各フロア全体のリーダー。



my first year. 02

福富 優一 FUKUTOMI Yuichi 2年

出身地/広島県(自由学園高等科 出身)

繋がりが生んだ新たな挑戦
成長した実践力を武器に、より前へ

新しいモノやコトを生み出せる多様な人々との繋がりに、改めて可能性を感じた1年でした。その繋がりは、自分の中の想像に過ぎなかった「ありたい未来」を、実社会の中でデザインしていく第一歩になったと感じています。現在は、そうした人の繋がりを育むことから大学内外のコミュニティの醸成を図る課外プロジェクトに取り組んでいます。新しい大学だからこそその困難もあります。それをいかに協働して乗り越えられるかが、今年の私自身のテーマです。「中心ではなく周縁に、本流ではなく傍流に、自分の足で立つ」とともに前へ歩んで行きましょう。



my first year. 03

大久保 帆夏 OKUBO Honoka 2年

出身地/広島県(広島県立安古市高等学校 出身)

特に身についたのは行動力
実践的なスキルを学ぶ日々

ICT系やPBL(課題解決演習)、プレゼンテーションを行う講義など、社会に出て実践的に使えるスキルを学べていると日々感じています。なかでもディスカッションをはじめとするアクティブ・ラーニングのおかげで、自ら進んで行動する力は特に身につきました。私は学生広報の活動をしているのですが、「叡啓大学を多くの人に知ってもらうには？」という課題について、大学が学生のアイデアを積極的に採用してくれます。学生主体となって様々な活動が行われている点も叡啓大学の特長の一つです。



		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
実践	課題解決演習(PBL)	●課題解決入門		企業などの多様な主体と ●課題解決演習 IA 連携し、実践的な課題発見・解決演習に取り組む ●課題解決演習 IB		●課題解決演習 II			
	体験・実践プログラム			学生各自の興味・関心に ■国内プログラム ■海外プログラム		応じて、卒業までに最低 2 回、うち 1 回は海外プログラムに取り組む ●国内ボランティア ●国内インターンシップ A ●国内インターンシップ B ●海外ボランティア ●海外インターンシップ ●海外短期プログラム			
修得	基本ツール科目	ICT・データサイエンス		■入門科目 基礎的な ICT 活用技術やプログラミングのスキルを養う ●ICT 入門 ●データサイエンス概論 A ●プログラミング入門		■基礎科目 より複雑な課題に対応できるスキルを養う ●ウェブプログラミングとアプリ開発 ●IoT 利用による問題解決 ●データ分析と統計モデリング ●データサイエンス実践論 ●情報発信技法 ●データサイエンス概論 B ●データ可視化法 ●AI ビジネス活用論			
		思考系		■入門科目 課題解決に必要な基本的な思考のスキルを養う ●ロジカルシンキング ●デザイン思考・システム思考		■基礎科目 プロジェクトを進める手法や議論を促進し合意形成を図る方法など、 他者と協働して課題解決に取り組む上で必要となるスキルのほか、論理的に文章を構成し表現するスキルを養う ●ファシリテーション ●プロジェクトマネジメント ●日本語アカデミックライティング			
	リベラルアーツ科目		■入門科目 人の多様性、社会の仕組み、自然との共存などに関する基礎的理解を養成		■基礎科目 平和な社会の構築や、課題解決を行う上での知識を修得		■発展科目 縦軸として (人) (社会) (自然) を設定し、それらを横断する軸としてウィンドウを設定。学生はいずれかのウィンドウを選択して履修するが、興味関心やプロジェクトの進行状況に応じて、他のウィンドウに関わる科目も履修できる		●持続可能な世界と私たち～SDGs の達成に向けて～
	People 人間 Prosperity 繁栄 Planet 地球		●ソーシャルシステムデザイン入門 (人) ●芸術・文学入門 ●哲学・倫理学入門 (社会) ●経済学入門 ●法的思考 (自然) ●環境学入門 ●科学技術倫理入門 ●数学入門 ●健康学入門		Peace 平和 16 平和と公正をすべての人に Partnership 共創 17 パートナーシップで目標を達成しよう (人) ●心理学概論 ●宗教と歴史 ●平和論 (社会) ●経営学概論 ●国際協力・安全保障概論 ●社会学概論 (自然) ●生命倫理学概論 ●人工知能概論 ●数学的思考法		ウィンドウ デザイン ウィンドウ ビジネス ウィンドウ エコシステム (人) ●哲学・倫理学 ●多文化共生社会論 ●メディア論 ●日本文化論 ●異文化論 ●科学哲学概論 (社会) ●公共経営論 ●地域協働論 (自然) ●認知科学概論 ●ヘルスケアサービス論 (人) ●公共芸術論 ●社会心理学概論 (社会) ●経営戦略・組織論 ●マーケティング論 ●ファイナンス論 ●社会起業家論 ●社会経済システム論 ●産業・ビジネスモデル論 (自然) ●バイオテクノロジー論 ●科学技術史 (人) ●文化人類学概論 ●フィールドワーク研究 (社会) ●環境経済学 ●地域活性論 ●開発経済学 (自然) ●自然災害論 ●都市環境論 ●環境工学 ●生物多様性論 ●地球環境論 ●生態学		
	実践英語		■入門科目 IEP(英語集中プログラム) 授業を英語で受けられるレベルの英語力を養う ●リスニング英語 I ●リスニング英語 II ●ライティング英語 I ●ライティング英語 II ●リーディング英語 I ●リーディング英語 II ●スピーキング英語 I ●スピーキング英語 II ●プレゼンテーション英語基礎 I ●プレゼンテーション英語基礎 II		■基礎科目 アカデミックな英語力や時事英語など、実践的な英語力を磨く ●アカデミックリーディング ●アカデミックライティング ●カレントイングリッシュ ●プレゼンテーションイングリッシュ ●コミュニケーションイングリッシュ				
日本語 (留学生科目)		●日本語 I ●日本語 IV ●日本語 II ●日本語 V ●日本語 III ●日本語 VI							

卒業プロジェクト

キャリア形成支援

視野・可能性を広げるキャリア形成支援で学生の将来をサポート

● ジャンプスタートワークショップ

学生は入学直後に、およそ1週間かけてジャンプスタートワークショップを受講します。学生が入学までの生活や学習を振り返り、将来のキャリアプランやライフプランについて考える機会とします。また、このワークショップで集中講義として実施する「課題解決入門」や「ソーシャルシステムデザイン入門」で、社会課題に対する当事者意識を醸成します。

● 学生支援×コーチング

自立心を育て自主的かつ自発的行動ができるよう、コーチングスキルを用いて自己との対話を促す支援としてコーチングを位置づけています。卒業後のキャリア像を明確にイメージできるよう、コーチングスキルを持つ本学職員などが一人ひとりの学びに寄り添い、学生が想定する進路に必要なコンピテンシーが効率的に身につくよう、学生の履修計画の策定などをサポートします。

完全クォーター制

1年を4学期に完全に分離するクォーター制を導入。自らの履修計画に応じて海外留学やインターンシップ、ボランティアに取り組みやすくなっています。

BURROWS Christian 准教授

(英語)

The Intensive English Program (IEP) offers students to develop a practical ability in all 4 language skills. This is intended as a platform to be able to take part in lectures and seminar conducted in English. It offers an opportunity for students to build on the knowledge and ability acquired up to high school. If you are motivated to improve your language ability, come and join our student-centered program. 博士(TESOL)



Profile

His research field is the teaching of communication strategies to improve speaking ability.

HIGGINBOTHAM George 准教授

(英語)

The Intensive English Program(IEP) will push your language skills in various ways so that after six months you will be confident to take all your Social System Design courses through English. In the reading classes, for example, you will read a lot of easy books (extensive reading) to build up your reading speed and then, in addition, read the kind of academic material (intensive reading) that you will be expected to cope with later in your studies. As well as improving reading skills, you will learn to write academically and present your ideas in a clear and logical way. Ph.D. Applied Linguistics



Profile

He has taught English (and researched vocabulary) at universities in Hiroshima for many years.

KASPAREK Nick 講師

(英語)

Let's share the joy of exploring new interests and playing with new ideas together. The university is a special place for study, where we can ask better questions and refuse easy answers. In my English language courses, we critically discuss contemporary issues and longstanding philosophical problems to explore different perspectives. We aim to use English to expand each other's imaginations and to participate in intelligent discussions globally.



Profile

An IEP lecturer from the USA who has taught at ICU, Rikkyo University, and Tokyo University of Foreign Studies.

LASSALLE Michael W. 教授

(自然科学)

Our world is undergoing rapid change, with big issues facing us now and in the future. The global temperature is increasing, while biodiversity is decreasing, unknown diseases are emerging, and wars are being fought again. How can you become a problem-solver? Having a background in science and technology will provide you with the creative knowledge to overcome the economic, social, and environmental challenges of the future. Join me on this journey and see how rewarding, fun, and engaging natural science can be. Dr. rer. nat. (Biophysical Chemistry)



Profile

A Natural Scientist with over 25 years of experience in research at academics and companies.

LEE Chui Ying 講師

(開発経済学)

With "SDGs" become a term that we could easily come across in our daily lives, sustainable development became a "strangely familiar" topic. However, how much did each of us genuinely engage and contributing to it? Throughout the years, dozens of stakeholders tried to transfer experiences from the developed to the developing world, yet, when it comes to putting them into actions, different reaction blasts and some struggles vigorously. Why is it so hard to design and put things right? There it comes, the importance of evidence-based policymaking and causality. To extract the underneath causal and develop the right policy for the developing world, let's take a deep dive into development economics fields and continuously learning more from the frontiers researchers approaches. 博士(学術)広島大学



Profile

A multilingual Malaysian and development economic scholar.

PETKOVA Galia 教授

(文学)

University years can be the best time of your life. It's entirely up to you what you make of it. You will make friends for life; you will grow intellectually and emotionally. How much you learn depends on you. Your teachers are here to help you and to stimulate you to learn, not to force you. Be curious - everything is interesting if you pay close enough attention. Use these four years well and you will gain both solid knowledge and confidence. But, most of all, learn to think critically, to analyse and understand human behaviour and society - this is the purpose of a university education. And spend time studying abroad. For me, this was my most constructive experience. Ph.D. in Japanese studies (University of London)



Profile

Specialising in Japanese and Asian traditional performing arts, cross-cultural studies, and gender studies.

石川 雅紀 特任教授 ISHIKAWA Masanobu

(環境経済学)

私は、工学博士を取得後、省エネルギー、気候政策、リサイクルの研究と教育に携わってきました。神戸大学ではゼミ生を中心としたNPOごみじやばんを立ち上げ、無理せず容器包装ごみが減る社会の実現を目指した活動を産官学の連携で進めてきました。学生が立ち上がることで社会が動くことを体験し、敎啓大学でも何か事を起こしたいと思っています。現在のテーマは、プラスチックごみ問題、食品ロス問題が中心です。 工学博士(東京大学)



Profile

神戸大学経済学研究科教授、NPO法人ごみじやばん代表。

粥川 準二 准教授 KAYUKAWA Junji

(社会学)

2020年春以来、世界は新型コロナウイルス感染症に悩まされています。その過程で、パンデミック以前から存在していた「社会問題」も浮き彫りになっています。そして今後、ワクチンが普及しウイルスが消えても、この社会は、決してコロナ以前と同じではいられないでしょう。私が専門とする社会学は、社会の変化を捉えつつ、社会問題に取り組むための学問です。敎啓大学では、“ウィズ・コロナ”、そして“アフター・コロナ”の社会問題に取り組むチカラを育てています。



Profile

愛知県出身。フリーランスのサイエンスライターなどを経て現職。

川瀬 真紀 教授 KAWASE Maki

(調査デザイン)

担当科目の一つが必修の「課題解決演習」です。この科目は、プロジェクト型学修を使い、グループで進めます。私たちの社会や身の周りに、実際にある様々な事から課題を見つけ、なぜその課題があるのか、どのようにすれば解決の糸口につながるのか考え、その解決方法を試します。基礎となる調査方法、解決方法の改善と評価・検証の方法も、しっかりと学んでください。学生の皆さんが課題の本質を把握して、真摯に向き合う態度を育て合いながら、総合的な実践力を身につけ、成長される様子に励まされています。 博士(教育学)



Profile

これまで米国ミネソタ大学、広島大学での教員。調査分野は、日常の中の「経験」。

水島 希 准教授 MIZUSHIMA Nozomi

(科学技術社会論)

現代の私たちの生活には、科学技術が深く浸透しています。科学や技術は日常生活だけでなく、人生観・生命観そのものにも影響を与えています。私はこうした科学技術と社会との相互作用に興味を持っています。SDGsについて考える際、例えば家事労働やエネルギー問題からわかるとおり、その解決のために科学や技術をどう使うか、あるいは使わないかを否応なく考えることになります。社会における科学技術のあり方について、みなさんと一緒に議論できることを楽しみにしています。 博士(理学)京都大学



Profile

専門は科学技術社会論。市民参加、市民科学、ジェンダー/フェミニストSTS。

長岡 さくら 准教授 NAGAOKA Sakura

(国際法)

ハッキリと意識することは少ないかも知れませんが、我々の生活は、常に法と共にあります。我々が思っている以上に、法は、我々の日々の生活に枠組を設け、我々を保護しています。昭和・平成・令和と時代が進む中、人々の価値観は変化し、今では互いの多様性を尊重し他者と協働することが求められています。このような新しい社会には新しい社会の仕組み(法)が必要となります(Neque mittunt vinum novum in utres veteres)。新たな社会のあり方や価値観を模索している日本・世界にとって、能動的・柔軟に物事に取り組むことができ、且つ、文系関係を問わず、問題解決能力を備えた人材が求められています。敎啓大学にて、一緒に、「法」という素材を用いて、様々な新しい問題に挑戦し、又、解決に取り組んでみませんか？ 博士(法学)九州大学



Profile

国際法分野において、大学、省庁(海上保安庁及び外務省(在外公館))、財団法人等での研究・教育・実務に従事。その間、(独)国際協力機構(JICA)を通じ発展途上国への国際協力・人材育成にも従事。

小野 浩二 准教授 ONO Koji

(ファイナンス)

FCO Scholarshipsを授与され、Imperial College, University of London留学。MSc, DIC両学位取得。銀行本部、政府系法人研究部長、国際会議議長を通じ、証券化等金融技術の高度化に成果を上げる。現在は、金融数理技術を活用し、公的資金ではなく高齢者自身の財産を活用した長寿リスクへの解決策である終身保障信託を提言。FP1級、英検1級、宅建ほか10 余の実務資格を保有。国の修学支援新制度に基づく実務教員として確認済み。12年間の大学教授としての教育研究と併せ、皆様の学びに活かしていきます。 MSc in Management Science, DIC



Profile

上級甲種国家公務員、政府系法人研究部長、大学教授、日本証券アナリスト協会検定会員。

下ヶ橋 雅樹 教授 SAGEHASHI Masaki

(環境学)

私たちの暮らす環境をコンピュータで表す、環境シミュレーションの研究に取り組んでいます。環境は、人々の生活の基盤です。社会をより快適で安全・安心なものにするためには、良好な環境が維持されなければなりません。そのためにはまず、環境とは何かを理解することが重要です。敎啓大学と一緒に、シミュレーションを駆使して環境と人間活動の関係を紐解き、私たちの活動が環境をどう変えていくのか、また、よりよい環境のためには何をすべきかを議論していきましょう！ 博士(工学)東京大学



Profile

企業や大学、国の機関での研究、WHO本部への派遣、JICA専門家などを経験。

瀬古 素子 准教授 SEKO Motoko

(国際協力・ジェンダー)

2020年代、世界はパンデミックと対峙し、大きな国際紛争やそれに伴う国連の機能不全を目撃しました。「地球規模の課題を解決するには国際協力が不可欠」と再認識すると同時に、国際社会が協働しても解決できない現状にも直面しています。この時代の国際協力や開発援助はどのようにあるべきか、国際社会の一員として私たちは何をすべきか、新しく難しい問いが生まれています。これからの世界のリアルな課題に対し、新しい解や価値を創造する力が持てるよう、ともに学び、行動しましょう。 Master of Science in Women's Studies



Profile

国際公務員、JICA専門家として4大陸9か国での勤務を経て現職。

早田 吉伸 教授 SODA Yoshinobu

(地域活性化／経営学)

環境変化が激しく、大きな価値転換が起きている現在。私たちは、これまでのやり方では解決できない問題に直面しています。これは、一見ピンチのようにも見えますが、既得権益に縛られていない人にとっては大きなチャンスです。このチャンスを活かすためには、<ソーシャルシステムデザイン>の考え方が重要です。また、それを学び、実践していくことが不可欠です。本学では、そのためのプログラムとプラットフォームを準備しています。ぜひ一緒に未来をデザインしていきましょう！ 博士(システムデザイン・マネジメント学)慶應義塾大学



Profile

IT企業・政府での実務を経て現職。地域活性化伝道師(内閣府認定)。

田口 陽子 准教授 TAGUCHI Yoko

(文化人類学)

大学は社会の一部でありながら、社会から少し離れて学問に打ち込める特別な場所です。例えば、文化人類学という学問では、私たちが当たり前だと思っていることが、時代や場所や制度によって驚くほどに多様であることを学びます。違うあり方が可能ならば、自分たちには変えられないように見える物事で、細部をいじってみることで少しずつ変えられるかもしれません。学内外での学びを通して、違う角度から物事を見たり、じっくり考えたり、新しいアイデアを試していきたいと思います。 博士(社会学)一橋大学



Profile

人類学者。現在はインドのケア労働と人間関係について研究中。

土本 康生 准教授 TSUCHIMOTO Yasuo

(情報通信技術)

あなたはコンピュータを自由に使えますか？僕はコンピュータが使える人と使えない人の違いはチャレンジ精神の有無にあると思っています。コンピュータを使って実現したいことの多くは検索で明らかにできます。つまり、自分で検索して見つけたことを試すかどうか、どんな経験をしたかが大きな差になるのです。コンピュータというのは、物理的に破壊しない限り、使えなくなることはありません。敎啓大学を目指す人には、このコンピュータを使っていろんな挑戦をして欲しいと思っています。 博士(政策・メディア)慶應義塾大学



Profile

インターネットを中心に情報通信技術を専門とする。敎啓学術情報センター長。

上杉 裕子 教授 UESUGI Yuko

(英語)

英語をマスターするために必要なことは何でしょうか？英語の4技能(読む力、聞く力、話す力、書く力)を高めることはとても大切です。しかし私は、それよりもまずは異なる言語を用いて、異なる意見や文化を理解しようとする積極的な姿勢(マインド)が大切だと考えます。敎啓大学では、入学後、半年間以上の4技能に加え、プレゼンテーションについても集中的に英語を学習するプログラムがあります。まさに英語漬けで、毎日英語のシャワーを浴びます。その後どんな科目でも英語で履修できる力とマインドが培われることをめざします。 博士(学術)広島大学



Profile

専門は英米文学、英語教育。高校・高専・大学で20年以上の教員歴、国際交流センター長。

山田 芳則 教授 YAMADA Yoshinori

(環境学)

気象や水象、地象に関する地球科学は、日々の生活や防災、地球環境問題などの背景となる非常に重要な分野です。一方、現在の社会では、膨大な量の各種データが蓄積されていますので、データサイエンスの学修も必須と言えます。地球上で生じている様々な現象の理解を通して、科学的に物事をみたり考えたりする力を涵養し、またデータサイエンスの知識・技術を身に付けることで、文系・理系を問わず社会において活躍できる場を広げることができるようになるでしょう。 博士(地球環境科学)北海道大学



Profile

地球環境科学博士。大雨や大雪をもたらす雲の研究が専門。

安富 淳 准教授 YASUTOMI Atsushi

(安全保障論、平和論)

現代社会において、悲しいことに世界各地でさまざまな暴力の被害に遭っている人たちが大勢います。暴力が支配する社会には富も健康な生活も教育も実現しません。世界に平和な社会をつくるにはどうすればよいのかー私たちの先輩たちは、この難題に取り組んできました。平和とはなにか、安全を守るとはどういうことなのか、戦争や紛争はなぜ起こるのか、どのように予防や解決できるのか、などの問題に、いっしょに議論しながら考え、学んでいきましょう。 博士(社会科学)



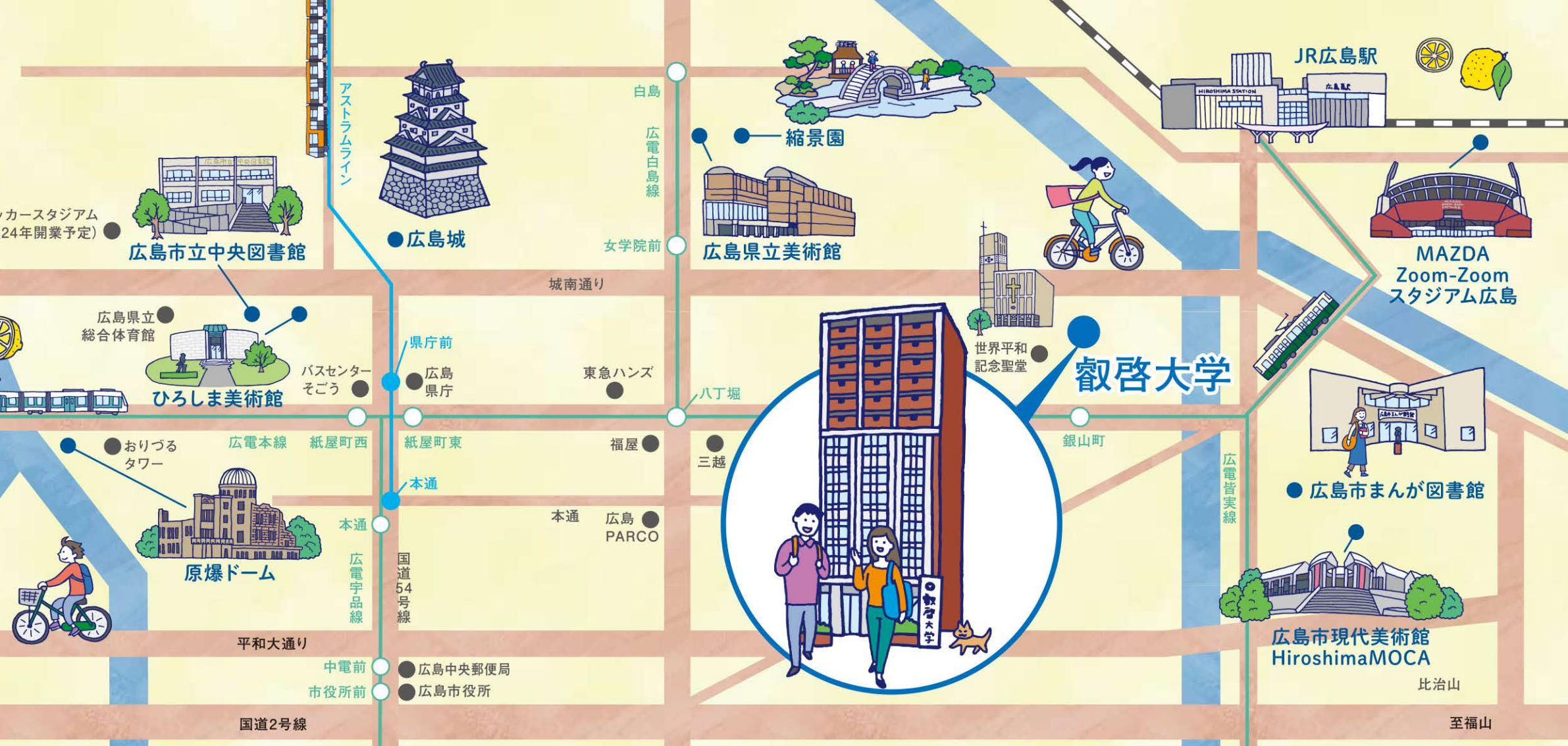
Profile

上智大学比較文化学部卒、ベルギー・ルーヴェン大学から博士号。在ブルガリア日本大使館専門調査員、国際NGO職員、平和・安全保障研究所主任研究員、宮崎国際大学講師、同准教授を経て、2021年より現職。

まち全体がキャンパス

本学のキャンパスは15階建ての建物です。
JR広島駅から徒歩約10分と通学における利便性が高く、市街地にありながら、静かで教育・研究に適した立地環境にあります。アクセスが良く、企業など多様な主体と連携しやすいため、質の高い学修プログラムを提供することができます。

- 広島県内13の美術館・博物館及び広島交響楽団のキャンパスメンバーズ制度に加入しているので学生証を提示することで特典を受けられます。
- 県立広島大学広島キャンパスの図書館などの施設を利用できます。



4F 教室

可動式の机やイス、ホワイトボードを備え、アクティブに学習できる環境になっています。



1F プロジェクトワークスペース

観啓大学の「顔」ともいべき空間。「新たな社会価値を創造する共創の<場>」をコンセプトとし、新しいものを生み出す創造力を刺激する空間として「ソーシャルシステムデザイン」の一端を体現しています。セミナーやワークショップをはじめとするイベントなどを開催できる「セミナーエリア」、企業や自治体関係者など、学生と地域の多様な主体との交流を図るための「コミュニケーションエリア」などを設けています。



15F 観啓トップ(イートスペースなど)

14F 英語ラウンジ、ラーニングcommonsなど



8F 教室など



3F PBL演習室、研究室、ポートなど

2F 図書室、事務室など

1F プロジェクトワークスペースなど

15F 観啓トップ

窓から広島市の街の様子を一望できる広々とした空間です。一人で自習したり友人と語らう場所として最適です。天気の良い日は瀬戸内海の島々が見えます。



14F 英語ラウンジ

英語のみを使用するスペースです。英語ニュースが常時流れ、海外の書籍やDVDがたくさん置いてあります。ネイティブの英語の先生たちが曜日や時間によって滞在し、授業以外の時間でも英語に触れることができます。



9~13F 徒歩0分の国際学生寮

学びと生活が一体化した国際学生寮は、留学生と日本人学生が共同生活を通じて、国際感覚を磨くことができます。管理人は配置されず、各フロアの学生レジデント・アシスタント(RA)、スチューデント・アシスタント(SA)が中心となり、大学教職員とも連携しながら、入居者の寮生活をサポートします。自らが寮生活の改善や向上に積極的に取り組み、国際学生寮を発展させていきます。

■レジデント・アシスタント(RA)

各フロアに1名ずつ配置され、担当フロアの状態を確認し、大学事務局との定期的なコミュニケーションやフロアの交流活動を行います。2LDKユニットに1人で居住しますが、ユニットスペースの一部は、他の寮生との交流活動の場として共有してもらいます。

■スチューデント・アシスタント(SA)

寮生のみなさんが順番に役割を担う持ち回り制で、5名前後の担当グループの状況を確認し、グループの寮生が快適な生活を送れるように支援します。また、RAを補佐してフロアの交流活動も行います。



入寮対象	観啓大学の学生 ※留学生及び交換留学生を優先します。
在寮期間	最長2年間

部屋タイプ (個室面積)	個室		ルームシェア		RA
	1R (23.55㎡)	2LDK 洋室・和室 (12.1~12.5㎡)	3LDK 個室Aタイプ洋室 (18.2㎡)	個室Bタイプ洋室・和室 (12.1~12.6㎡)	
戸数	74戸	5戸	5戸		5戸
入居者数/戸	1名	2名	3名		1名
寮費(月額)シェアタイプは 1名当たりの料金	46,000円	32,500円	37,000円	32,500円	46,000円
共益費(月額)	約1,000円(概算) (共有フロア電気代、インターネット使用料)				

※その他、光熱費(実費)などが必要です。



2021年広島に開学した新しい県立大学

えい けい
叡啓大学
EIKEI UNIVERSITY OF HIROSHIMA

<https://www.eikei.ac.jp/>

TEL:082-225-6201 (代表)

〒730-0016 広島市中区鞆町1-5



東京	空路 (成田空港)	広島空港	バス	JR広島駅		叡啓大学
	約1時間40分		リムジンバス (JR広島駅まで)			
	空路 (羽田空港)		約50分		徒歩 約10分	
	約1時間20分					
大阪	陸路 (新幹線) (JR東京駅)					
	約3時間45分					
福岡	陸路 (新幹線) (JR新大阪駅)					
	約1時間20分					
	陸路 (新幹線) (JR博多駅)					
	約1時間					